

徳本峠

徳本峠は上高地溪谷とその南にある島々集落の間を走る登山道上にあります。1600 年代初期には、地元の住民は木材を伐採・収集したり、薬草を採取したりするために山に入る際の手段としてこの山道を利用していました。この登山道は島々やその近隣エリアから上高地に至る唯一の道であり、その 20 キロ近い経路に沿った移動は徒歩で行われました。

国の産業化のために日本政府によって採用された、多くの欧米の専門家の一人で、イギリスの鉱山技師であったウィリアム・ゴーランド（1842-1922）が訪れるまで、楽しみのための登山というものはあまり知られていませんでした。ゴーランドは槍ヶ岳の山頂に案内された後に、「日本アルプス」という言葉を作りました。イギリスの宣教師で、熱心な登山家でもあったウォルター・ウェストン（1860-1940）はゴーランドの跡を継ぎ、日本における登山の普及に貢献するとともに、日本アルプスの名を世界中に知らしめました。ゴーランドもウェストンも日本滞在中に徳本峠を越えており、ウェストンに至っては徳本峠の登山道を 11 回も歩いています。

レクリエーション登山の人気の高まるにつれて登山エリアへのアクセスが改善され、1927 年には上高地への舗装道路が完成しました。1923 年に登山者用の宿泊施設としてこの登山道に建てられた古い山小屋は今日でも利用することができ、長野県政によって有形文化財に登録されています。

徳本峠の登山道を歩くには上高地からだ約四時間かかり、新島々駅から四キロの島々からは約八時間かかります。峠では 2,135 メートルの高さから穂高連峰を眺めることができます。